



第 34 回関西 CAPD ナースセミナーが、

2019 年 2 月 3 日（日）に

エル・おおさか（大阪府立労働支援センター）
にて開催されます。

当院からは、

臨床工学科 田村尚紀 技士が
学術発表を致しますので、

ご紹介いたします。

第34 回関西CAPDナースセミナープログラム

テーマ『高齢社会とPDの関わり～健康寿命をのばすために～』

9:30~10:00	会場 受付		
10:00~10:05	開会の挨拶	関西CAPD看護研究会会長	井本 千秋
10:05~10:50	一般演題		
		座長 酒井 圭子	JCHO大阪病院
①	【PDからHHDに移行した1症例を経験して】	本竹 香織	医療法人 計行会 高橋計行クリニック
②	【安心できるAPD治療を目指して～初めての感染管理～】	森下 美代子	社会医療法人 同仁会 耳原総合病院
③	【肝硬変による難治性腹水を合併した透析患者に PDカテーテルを用いてCARTを施行した1例】	田村 尚紀	医療法人 康仁会 西の京病院
10:50~11:00	休憩		
11:00~12:00	特別講演		
		座長 岩井 典子	医療法人 計行会 高橋計行クリニック
<h3>「フットケアにおける足の運動療法～予防期に重点をおいて～」</h3> <p>講師：高倉整形外科クリニック リハビリテーション科部長 小俣訓子先生</p>			
12:00~12:15	休憩		
12:15~13:15	ランチョンセミナー		
	共催メーカー：バクスター株式会社	座長 上田 恵利子	医療法人 蒼龍会井上病院
<h3>「健康寿命とPDについて」</h3> <p>講師：医療法人 計行会 高橋計行クリニック 院長 高橋 計行先生</p>			
13:15~13:25	休憩		
13:25~15:25	ワークショップ		
		座長 本多 比佐代 中尾 弘美	社会医療法人 同仁会 耳原総合病院 藤井寺敬任会クリニック
<h3>テーマ「多職種で支える在宅医療としてのPD」</h3>			
①	【PD患者の健康寿命をのばす秘訣～栄養管理の立場から】	栄養士 川手 由香	社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院
②	【高齢社会における腹膜透析患者への リハスタッフの関わり】	理学療法士 山下 真由子	公益社団法人 京都保健会 京都市民連中央病院 リハビリテーション部
③	【在宅療養が困難と思われる高齢患者さんの PD導入から在宅までの関わり】	看護師 佐古 光子	貴生病院
④	【高齢PD患者への在宅支援】	看護師 山崎 由美	医療法人 蒼龍会井上病院
15:25~15:30	閉会の挨拶・終了	第34回ナースセミナー運営委員長	医療法人 計行会 高橋計行クリニック 水野 里美
15:30~16:00	関西CAPD看護研究会 総会		

当ナースセミナーは日本腎不全看護学会「慢性腎臓病療養指導看護師（旧透析療法指導看護師）」4ポイント加算対象に認定されております

申し込み・受付方法

開催日時：2019年2月3日（日）

開催場所：エル・おおさか（大阪府立労働支援センター）2階 エル・シアター

参加費：施設・個人会員 3000円 一般 5000円

受付期間：2018年12月1日（土）～2019年1月25日（金）

参加申し込みは、下記のWEB登録のみです（パソコン・スマートフォン用）
QRコードを読み取るか、下記URLを入力し、入力画面の指示に従い、
登録をお願いします

登録用URL

<http://www.kansai-capd-ns.com/sys/category/event/>



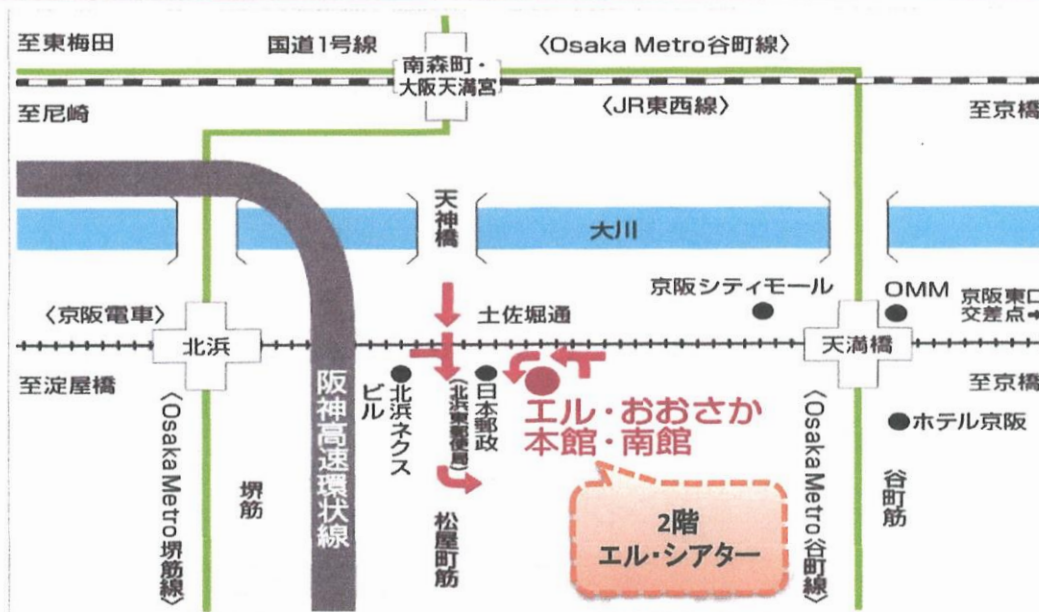
申込みにあたって

参加人数・会員種別（会員もしくは一般参加）・施設名・氏名・フリガナ・
メールアドレス・郵便番号・住所・電話番号は必須の入力項目になります

申し込み完了の確認

必要事項を入力後、**送信**ボタンを押すと、登録したメールアドレス宛てに
『ご予約を承りました』というメールが送信され、参加登録完了となります
1台の端末（携帯・PC）から複数名のご登録が可能です

交通のご案内



- 京阪・Osaka Metro谷町線「天満橋駅」より西へ300m
- 京阪・Osaka Metro堺筋線「北浜駅」より東へ500m
- Osaka Metro御堂筋線「淀屋橋駅」より東へ1,200m
- JR東西線「大阪天満宮駅」より南へ850m

車でお越しの場合は、阪神高速東大阪線、法円坂出口を
左折して直進、京阪東口交差点左折、西へ信号5つ目
(地図上の矢印は、エル・おおさか周辺からのご案内です。)

主催：関西CAPD看護研究会
後援：公益社団法人 大阪府看護協会

肝硬変による難治性腹水を合併した透析患者に PD カテーテルを用いて CART を施行した 1 例

(医) 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

田村尚紀¹⁾ 川西大¹⁾ 大西順也¹⁾ 二神徳明¹⁾ 野口幸¹⁾ 高藤節子²⁾

渡邊美智子²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【はじめに】当院では PD から HD に移行する場合 EPS を予防する目的で一定期間 PD カテーテルを温存している。今回、PD カテーテル温存期間に多量の腹水を認めたためにカテーテルを用い CART を実施した症例を経験したので報告する。CART とは腹水症患者の腹水をバックに採取し、濾過を通して除菌、除細胞した後、濃縮して点滴静注する方法である。

【症例】60 歳代女性。アルコール性肝硬変があり肝萎縮が著明である。糖尿病性腎症由来の腎不全で 2008 年 9 月 PD カテーテルを留置し、CAPD を開始した。2014 年 5 月腹膜機能低下による除水不良のため HD へ移行した。HD 移行後、週 3 回の HD 前に PD 看護師が温存しているカテーテルで腹腔洗浄を行っていたが、徐々に最大 3500ml まで排液が増加、低 alb 血症、低タンパク (TP) 血症が進み、全身倦怠感を訴えたため、2017 年 10 月より 2 週間毎、計 16 回 CART を実施した。Alb 値は治療前 2.4 から 2.7g/dl、TP 値は 5.5 から 6.4g/dl に改善した。CRP 上昇や PD 腹膜炎発症もなく良好な経過を辿っている。また、自覚症状も軽減している。

【考察】非代償性肝硬変による難治性腹水は治療が困難であるが、本症例は透析患者で温存されていた PD カテーテルを用いて、PD 看護師と臨床工学技士のスムーズな連携により患者の QOL 向上に貢献できたと考える。

【結語】難治性腹水患者に PD カテーテルを用いて安全にかつ簡便に CART を実施することができた。